

事業戦略

プレス・樹脂製品事業

事業概要

自動車ボディ骨格向けに、軽量化と高強度化を両立させる超ハイテン材プレス製品や、加飾技術、防音・防振技術など多彩な分野にまたがる樹脂製品を製造しています。



取締役専務執行役員
プレス・樹脂事業本部 本部長
野田 照実

成長戦略

「提案型技術集団」として、広くグローバルに高付加価値製品を拡大させていきます。

当社プレス事業の強みは、軽量化により脱炭素化に貢献できる超ハイテン技術です。また、車両ボディの構造解析・衝突解析技術を高度化し、車両開発の初期段階から貢献できる「提案型技術集団」として、広くグローバルに高付加価値製品を拡大させていきます。

付加価値向上に加え、重要な課題は、コスト競争力の強化です。今秋より稼働開始予定の東大垣工場にできる新プレス工場は、コスト低減においても優位性があります。スマートファクトリー化を進め、従業員の働きやすさと生産性を画期的に向上させ、グローバルマザー工場として、培った経験や技術を国内外他拠点にも横展開していきます。特に、伸びしろのある海外拠点の現地化を含む収益力強化策に重点的に取り組んでいきます。また、サプライチェーン全体の競争力を向上させるため、仕入先様に寄り添い、今まで以上に一体感を高め、カイゼン活動を通して仕入先様の体質強化に取り組んでいきます。

樹脂事業は相対的に資本効率が良く、新中計では多様な顧客に拡販可能な成長事業と位置づけました。強みである防音・防振、加飾技術を活かし、新製品開発と新規顧客拡販を加速させていきます。脱炭素やサーキュラーエコミーをふまえた樹脂材料開発や製品開発を強化し、並行してメガサプライヤー向けや、米国、ASEAN、インドなどグローバルに新規拡販を図ります。

これらの実現に最も大切なのは、人財です。会社の将来を担うすべての人財が、新しいことへの挑戦や、コスト・安全・環境などのカイゼンを自発的にできるよう、心理的安全性を高めた職場づくりに取り組んでいます。こうした風土づくりを継続し、従業員エンゲージメントと収益性を高めていきます。

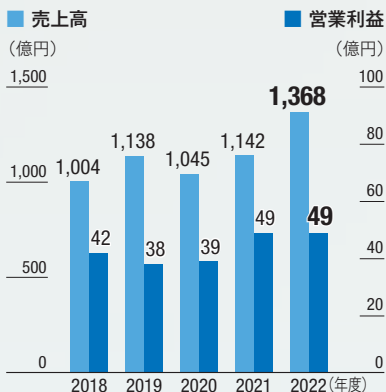
マイバース

事業収益の最大化で、従業員・家族を守り
地域・社会に貢献します

2030年のめざす姿

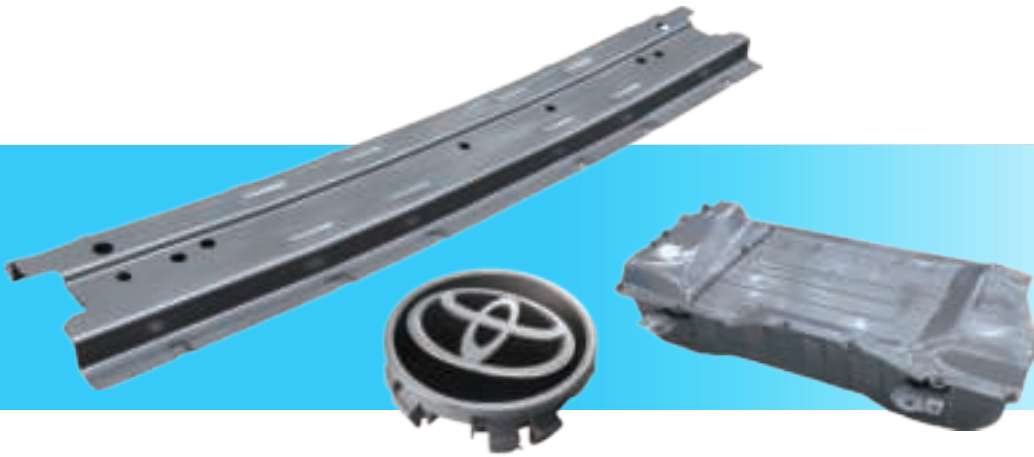
プレス

- ・脱炭素時代に勝ち残るべく、「提案型技術集団」となり高付加価値を創造
 - ・生産技術革新&スマートファクトリー化で、他社を凌駕するコスト競争力を確立
- 樹脂
- ・防音・防振、加飾技術を応用し新市場の創出
 - ・サーキュラーエコミーへの転換



2023年3月期の概要

円安による為替換算の影響や、原材料価格の変動などにより、当事業全体の売上高は1,368億6百万円(前期比19.7%増)となりました。地域別では、日本556億22百万円(同4.3%増)、欧米529億64百万円(同34.7%増)、アジア282億20百万円(同30.5%増)、海外比率は59%となっています。利益面では、特に米国テネシー拠点において半導体不足に伴う生産量変動、離職率増加による収益性の低下や、エネルギー・諸資材価格高騰などのコスト増加影響がありましたが、日本・欧米・アジア各拠点の生産台数回復による販売物量の増加や、生産の安定化による収益性向上、原価改善などにより、営業利益は49億77百万円(前期比1.1%増)となりました。



マテリアリティ

- ・モビリティの安全性向上
- ・環境配慮製品の開発

注カテマ ▶ 冷間プレスとボディ構造解析提案で価値創出

当社グループは、CO₂排出量がホットスタンプ工法に比べて約1/8に削減可能(当社試算)な冷間プレス工法を得意としています。また、設計の早い段階から顧客の車両開発に参画し、付加価値の高い仕事づくりをめざし顧客の課題やニーズ探索を行っています。

当社のボディ構造解析技術を活かし、冷間プレス工法への置き換え、軽量化、部品点数削減など、ボディ最適構造を積極的に提案しています。衝突安全性を保ちながら軽量化提案を推し進め、環境負荷低減と安心・安全を両立していきます。



冷間プレス工程

注カテマ ▶ スマートファクトリー化・自動化

東大垣工場にできる新プレス工場をモデル工場と位置づけ、スマートファクトリー化・自動化による省人と生産性向上を進めています。自動搬送AGVを導入し、各生産設備や搬送装置などのネットワーク化を進めています。リアルタイム生産実績収集システム、インフラ・エネルギーの見える化によって異常時の即時アクションが可能になり、設備可動率が画的に向上します。また、検査工程にAIカメラを採用し画像認識技術を活用した外観検査は、品質・生産性向上に大きく貢献しています。



AIによる検査

注カテマ ▶ 防音・防振&加飾技術で新市場開拓

エンジン音に隠れていた新たな騒音源に着目し、エンジン向け防音カバーで培ってきたノウハウを活かし、電動コンプレッサー向け防音カバーの量産化に成功しました。

また、空力を良くすると電費改善につながるというニーズに着目し、すでに量産実績のある空力向上ホイールキャップの開発を強化しています。



電動コンプレッサー向け防音カバー



空力ホイールキャップ

トピックス



東大垣工場に新プレス工場誕生

プレス設備の増強、溶接ラインの自動化に加え、再生可能エネルギーの導入や働きやすさの向上など、時代の要請に応えた工場となっています。あわせて工機棟を新築し、冷間超ハイテンや大物部品金型のコスト競争力強化、リードタイム短縮を図るとともに、技術や技能の手の内化を拡大します。また、樹脂およびIoT関連の新製品開発を強力に推し進めるR&D棟も新設します。これらの機能を組み合わせる事により、「新たな価値づくり」を形作るグローバルマザー工場として、持続的な売上と利益の増加を担います。

人 員	250名
敷地面積	約92,000㎡
延床面積	約48,000㎡(工場)
投資総額	300億円 (厚生棟・工機棟・R&D棟を含む) プレス機:6台(3,500tトランスファー他) 溶接機:30台(自動設備・自動搬送含む)

売上高構成比
(2022年度)
28.3%

事業戦略

バルブ製品事業

事業概要

複数の世界トップシェア製品をもつバルブ製品、世界各国で装着が法規化されているTPMS(タイヤ空気圧監視システム)、鍛圧製品などで構成されています。また、航空機、産業機械、エネルギー産業向けバルブも製造しています。



取締役専務執行役員
バルブ・TPMS事業本部 本部長
彌川 久

マイバース

合知合力で、いいごと(機能・品質)を提供する

成長戦略

開発型事業となることをミッションとし、熱マネジメント分野の開拓を進めます。

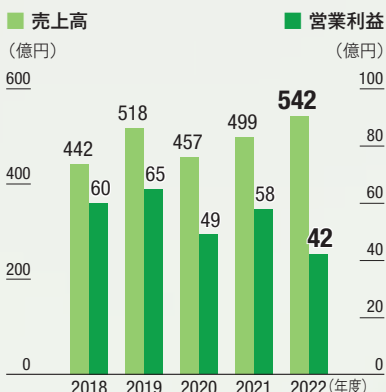
自動車業界では、カーボンニュートラルに向けた電動化の進展という大きな変革が起きつつあります。時代の流れ、市場動向が変わっている中で、いかに変化をチャンスに変えていけるかが成長できるかどうかの分かれ目です。

バルブ・TPMS事業は、従来からオリジナル商品を設計しており、お客様へ製品機能およびその技術を提供する事業を展開しています。これからは、新しい商品・新しい技術を提案する開発型事業となることをミッションとして、お客様から「いい仕事してくれたね」と評価いただけるような機能、他にはない価値を提案し続けることが大事だと考えています。特に、BEVの最重要部品である電池周りの熱マネジメントシステム向け製品を次の事業の柱として成長させること、これは絶対にやり切りたいと思います。従来バルブの基礎技術を活かせるだけでなく、TPMSや電子部品の経験、量産技術を持っているのは当社の大きな強みです。それらを活かして熱マネ分野のバルブに融合させ、新たな機能製品を提供していきます。

同時に、既存事業の収益を確保していくことが重要です。タイヤバルブとバルブコアを世界中に供給しているバルブ事業では、すでに50年以上の設備もありますが、熟練技能員によるメンテナンスと改善により、新しい設備と同等に稼働し続けており資本効率の向上に寄与しています。この知恵と工夫が詰め込まれたラインに、見学されたお客様から高い評価をいただくこともあります。そういった歴史ある工場だけでなく、新しい製品・ラインを含め生産現場や間接・事務スタッフも、デジタル技術を駆使しながら知恵と工夫で、効率化・自動化をさらに進め、既存事業のスリム化を行い、競争力強化を図っていきます。そこで捻出したリソースを、熱マネバルブをはじめとした新規の製品分野に振り向け、既存品の競争力強化と新製品開発の両輪で、持続可能な成長をめざします。

2030年のめざす姿

- ・市場ニーズを先取りした、スピード感ある開発型事業展開の実現
- ・電動車用熱マネジメントシステム向け製品で、新たな事業の柱を確立



2023年3月期の概要

当事業全体の売上高は、円安による為替換算等の影響により542億7百万円(前期比8.4%増)となりました。地域別では、日本147億71百万円(同3.0%減)、欧米251億53百万円(同14.7%増)、アジア142億83百万円(同11.3%増)、海外比率は73%となっています。利益面では、原材料やエネルギー・諸資材の高騰によるコストアップをカバーするため、顧客への価格転嫁の活動を進めてきましたが、コスト上昇分をすべて回収するには至らず、営業利益は42億58百万円(前期比26.9%減)となりました。



マテリアリティ

- ・モビリティの安全性向上
- ・環境配慮製品の開発

注力テーマ ▶ 熱マネジメント

熱マネバルブは2030年には冷媒用膨張弁だけでも1,000億円以上の市場があると推定しており、周辺バルブ部品も合わせると2,500~3,000億円程度の市場が見込めます。当社は冷媒用電動膨張弁で、2030年に最低でも10%のシェア獲得、売上100億円をめざします。さらに周辺バルブの獲得による成長を狙って、戦略的に開発・拡販を進めます。

開発・拡販は日本だけではなく、2018年に買収したシュレーダーのフランス・米国拠点も含めた3極開発体制を構築します。グローバルに広がる市場に対し、日本のリソースだけでなく、シュレーダーが持っている開発・営業リソースもフル活用し、グローバルでチーム一丸となって取り組むことで、各地域の顧客ニーズをいち早く捉えたタイムリーな提案・開発で電動化の進展に貢献していきます。



BEV向け電動膨張弁

注力テーマ ▶ バルブ・TPMS戦略

すでに高いシェアを持つバルブ・TPMS製品は、強みである圧倒的な品質と高い技術を武器に新市場・顧客への拡販を進めます。TPMSはこれまで日系顧客を中心に開発を進めてきましたが、欧米や中国の最新動向をいち早く取り入れ、データビジネスへの展開も視野に、社会課題解決の観点も踏まえ、市場に先んじた提案をしていくことで商品力の強化を図り、事業の拡大をめざします。



最新型TPMS Gタイプ

注力テーマ ▶ 収益基盤強化

これまでバルブ事業は、素材の配合から全て自社で行う一貫生産体制、内製比率ほぼ100%が強みでした。近年、材料・エネルギー価格の高騰が収益を圧迫しています。短期的には工法の見直しによる材料歩留まりの向上や、AIを活用した検査工程の自動化など、徹底した合理化を行い、収益性の向上をめざします。長期的な戦略としては、材料革新が必要です。バルブトップメーカーとして、率先して取り組んでいきます。



米国TPMS製造ライン

トピックス

**検査工程の自動化を進化させ、
これまでに50%の省人効果を達成**

従来：目視検査



ロボット検査



将来の働き手不足のリスクに備え、「人の機能を自動化する」をコンセプトに自動化による省人活動を推進しています。

検査工程では、ロボットとAI、3Dビジョンカメラの組み合わせにより、従来の専用設備による自動化では不可能であった、少量多品種の製品に適した汎用性のあるロボット検査機の構築を実現しました。バルブ関連製品のラインでは、多くのロボット検査機や自動検査ラインが稼働しており、全体で検査工程での50%の省人効果を達成、より創造的な仕事への業務転換とあわせ、付加価値を高めていきます。

事業戦略 新事業

事業概要

新事業は、モビリティ以外の分野で長期的に当社の事業の柱を作っていくために、コア技術を活用し、さまざまな挑戦を続けています。

成長戦略

**すばらしい会社の仲間と、
苦勞しながらも一緒に成長し、
次の太平洋工業のステージに進みます。**



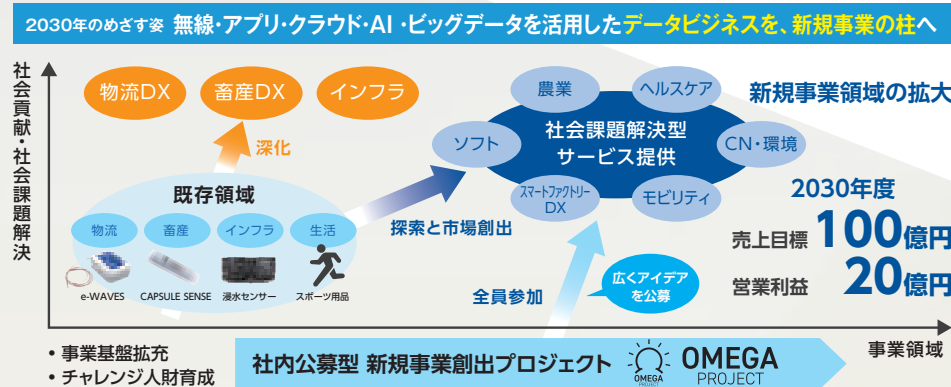
技術企画センター センター長
コーポレート企画センター 副センター長
竹下 功

VUCAの時代にも成長し続ける企業として、次なる事業の柱を新たに生み出していくことが新事業の役割です。モビリティを中心とした既存事業で競争力を高めつつ、新規事業として社会課題解決に資する新しい価値創造に取り組むことは、私はとても夢のある仕事だと感じます。この挑戦を通じて働いている人が成長でき、思いを実現し、そして結果として会社も成長できる、そんな好循環を生み出していきたいと思えます。

2030年までの目標を高く掲げましたが、経験したことのない分野への挑戦であり、その取り組みに王道はありません。すでに上市した新商品も、ゼロからスタートし着実に販路を広げています。Ωプロジェクトも活用して、まずは自由な発想でアイデアを出し、事業化の可能性の高いものに外部連携含めリソースを投入します。デバイスから得られたデータをAIで分析しデータビジネス化していくこともポイントです。

「NEXUS-26」では、挑戦することが評価され、変わり続ける風土が当たり前になることに注力します。日々取り組む中で強く思うのは、一人ひとりの高いスキル、新しい

発想、挑戦する心、そして力強さやがんばりです。このすばらしい会社の仲間と、苦勞しながらも一緒に成長し、次の太平洋工業のステージに進みたい。常に今日より明日の精神で取り組み、結果として楽々と目標を超えることができたらと思います。



牛体調モニタリングシステム 「CAPSULE SENSE」販売開始

TPMSの技術を応用して、牛の胃内の状況をモニタリングする「CAPSULE SENSE」を開発し、2022年6月に販売開始しました。人に代わって一頭一頭の牛を見守り、発情、分娩、疾病の見逃しによる損失を防ぎ、人手不足に悩む畜産従事者がゆとりを持って持続可能な畜産に貢献し、新事業分野を牽引します。



マルチセンシングロガー 「e-WAVES」の進化

2021年に上市したマルチセンシングロガー「e-WAVES」が、2022年10月に“超”モノづくり部品大賞で「日本力(にっぽんぶらんど)賞」を受賞しました。2023年6月には、再生医療製品にも最適な、進化したハイスペックモデル(LTE2)を販売開始、市場拡大が予想される再生医療分野にも拡販します。

